

官民協議会
向殿サブワーキンググループ

1. これまでの活動概要

神戸宣言のもと活動展開

神戸宣言 四つの経営理念

- ① **経営層がリーダーシップを発揮**し、常に現場の声を反映できる体制の強化
- ② 設備の老朽化等の厳しい現状、技術革新を生かした新たな取組を踏まえた、**安全への投資**の促進
- ③ 階層別、協力会社を含めた**安全人材の育成**や**安全教育の拡充**
- ④ 重点的に取り組むべき課題を抽出し、その原因・対策などを検討し、検討結果を**業界内外に共有**

【向殿サブWGの検討事項】

「安全管理体制強化」

- ・労働安全衛生マネジメントシステムのJIS策定への関与

「安全投資促進のため」

- ・設備点検・補修・更新基準の共通化
- ・リスクアセスメント標準手法の開発

- ・日常的な安全活動など日本の取組成果を踏まえたJIS策定
- ・設備劣化に応じた安全取組
- ・用語の理解などの共有化。
- ・誤使用の特定/見積り方法の開発
- ・他の業界/事業場の取組事例共有化

2017～2018年度
MS・RAの調査
(JIS Q 45100提案)

2019～2020年度
意図的なルール違反・ヒューマン
エラーのリスクアセスメント

2021～2022年度
リスクアセスメントのハザード特定

2017～2019年度

設備点検・補修・更新基準の共通化

2017年

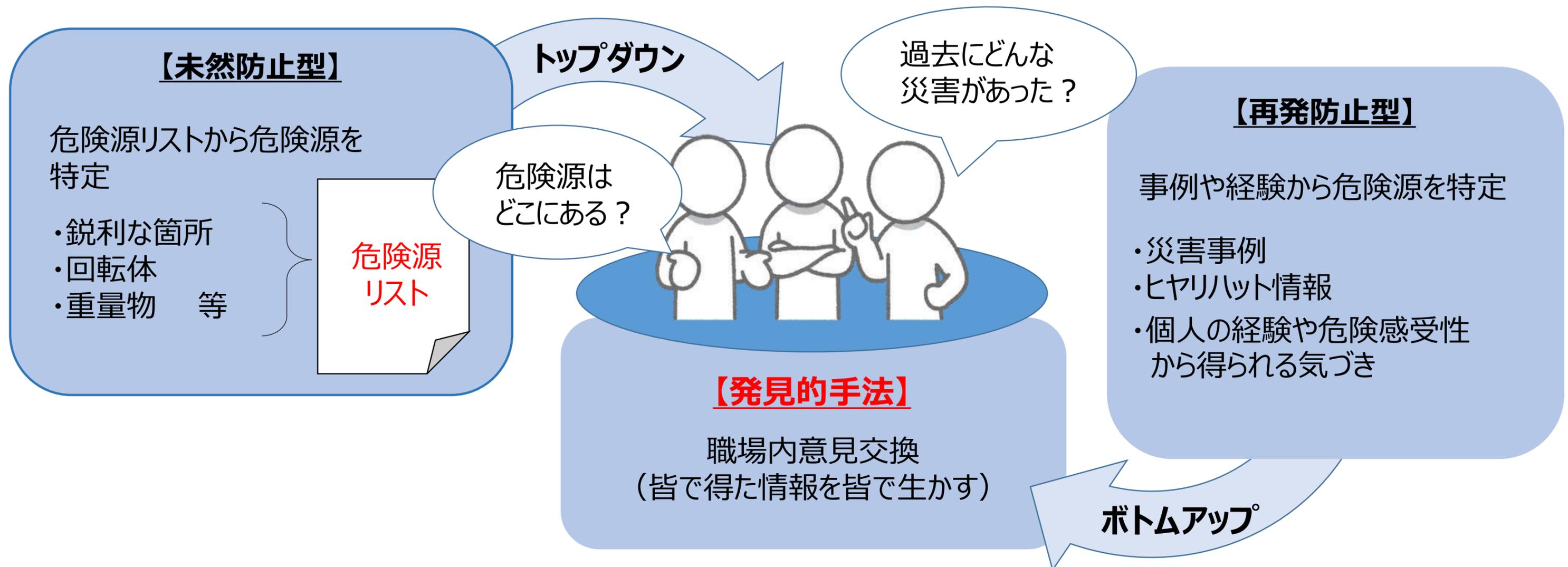
2022年

2. 2022年度向殿サブWGの活動内容について

リスクアセスメントの危険源の特定において、各業種からの事例をもとに、共通手法を探る。

2021度までのWGにおいて、網羅的なリスクアセスメント実施には職場での意見交換による「**発見的手法**」が有効であり、そのためには「わかりやすい危険源リスト」の用意と、「職場で意見交換を行うためのコミュニケーションツール」の2つが大切であるとの意見にまとめ、まずは各社における「コミュニケーションツール」の紹介を行った。

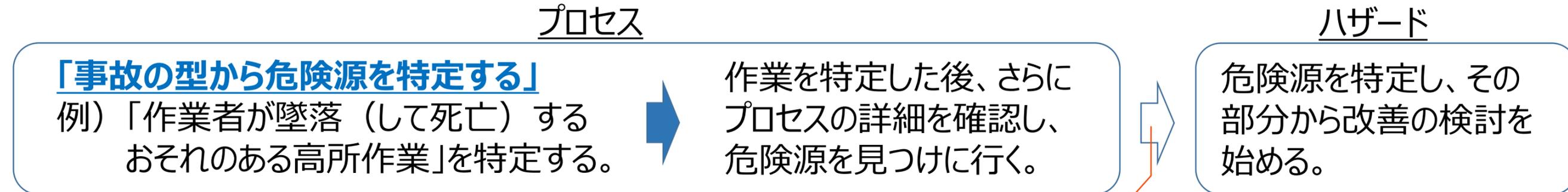
2022年度は昨年度に引き続き「代表的な危険源リスト」の作成・提案を進める。



3. 活動詳細：「危険源」をもっとイメージしやすく（代表的な危険源リスト作成）

【実際に多く行われている※RA（事故の型を用いたRA）】※2020年調査結果より

再発防止的観点（ボトムアップ型）：過去の類災や結果に学ぶ



この部分が進まないと危険源が特定できず漏れてしまう可能性がある。危険源に結びつけ、網羅的なRAへ確実に繋げたい。（想定できなかった災害は未然防止できない）

【危険源（ハザード）から始めるRA】

リスクアセスメントのステップ（下記①～②）に基づく評価

- ① 危険源（危害を引き起こす潜在的根源）を明らかにすること
 - ② リスク見積もりにつなげるために、危険源ごとに、ケガに至るプロセスを明らかにすること
- ※ ①と②は表裏一体（②から①が明らかになることもある）

未然防止的観点（トップダウン型）：論理的、網羅的、物理現象から探す ⇒ **「危険源を網羅的に特定する」**



RAのスタートとなる危険源を特定しやすいように、イメージしやすい具体的な着眼点（設備や工具・作業環境等）を一覧化し提供。

4. 活動詳細：「危険源」をもっとイメージしやすく（危険源リスト例作成）

各社事例をもとに、設備や工具・作業等に、どういった危険源が潜んでいるのか判断しやすい危険源一覧を作成する。
作成した一覧は、各社の実状に応じて改編し活用する。

【活動内容】 具体的な設備等に対する危険源一覧作成

- ① JISにある「危険源の型」を、わかりやすくイメージしやすいワードに変換。
- ② 変換した「危険源の型」から、関係する設備や工具・作業等の具体的な名称を各団体を通じて情報収集。
(9団体、44社から回答)
- ③ 具体的な設備や工具等の名称を左列に整理し、それぞれに対応する危険源リストを作成。

ご協力いただき
ありがとうございます。

【作成リスト例（イメージ）】

| ① | | ② | | |
|------------------------|-----------|----------------|------------------------|------------|
| | | 機械・設備 | 工具、原材料、製品、副産物 | 作業、環境 |
| 危険源の型 | | 具体例 | | |
| 機械・器具等に係る危険源 | | | | |
| 回転している箇所 | | 記入（追加） | | |
| 伸縮・上下運動する箇所（隙間が狭くなる箇所） | | 逆引きに 組みなおす。 | | |
| 内部に高圧がかかっている箇所 | | | | |
| ③ | | 機械・器具等に係る | | |
| 50音 | 設備・工具・作業等 | 回転している箇所 | 伸縮・上下運動する箇所（隙間が狭くなる箇所） | 内部に高圧がかかって |
| あ | アーク溶接 | 整理 | | |
| あ | アルカリ洗浄液 | | | |
| あ | 圧延機 | | ○ | |

ひとつの設備や工具等に対し、
複数の危険源がある場合も考
慮。漏れの低減につなげる。

【作成リスト例の活用方法】

作成した本リストを一例とし、詳細な設備名称や危険源を現場目線で追記することで、各社の実状に沿った「危険源一覧表」にすることができる。（今回作成するリストはあくまで例示）

5. 危険源調査内容と進捗報告

【調査内容】

「危険源につながるキーワードから具体的な設備等を例出するためのリスト」を作成するための情報提供。
危険源を設備、工具、作業等の視点で横広に見出すため設備等を記載することで、**危険源と設備等をつなげ、危険な設備等の見落としを防ぐ。**

ただし、設備等は各業界・各社によって大きく異なり数も非常に多くなることが予想されるので、**今回は代表的なものに限る。**

【調査期間】

7/28～9/1

【進捗】

回答数：44件（9団体）

順次リスト化、現在12件終了。（※9月22日現在）

年内完了、年度内配信を目標。

【提供された危険源の例】

例① 溶接作業



- ・熱いもの（機械、材料）
- ・充電部
- ・電気工具のコード
- ・有害光線（アーク）
- ・粉じん等

例② 重量物運搬作業



- ・重量物取り扱い
- ・作業姿勢
- ・共同作業

6. 作成したリストの活用例

【溶接作業の場合】



これを作る際に
本リストを活用！

① 設備のリスクアセスメント結果や、自社の危険源リストの情報

設備のリスクアセスメント結果や作業手順書に加え、自社の危険源リストを用いて具体的にどこにリスクがあるのかを職場で話し合う。

(今回作成した危険源リスト例等を参考に、自社危険源リストを作成)

自社
危険源
リスト

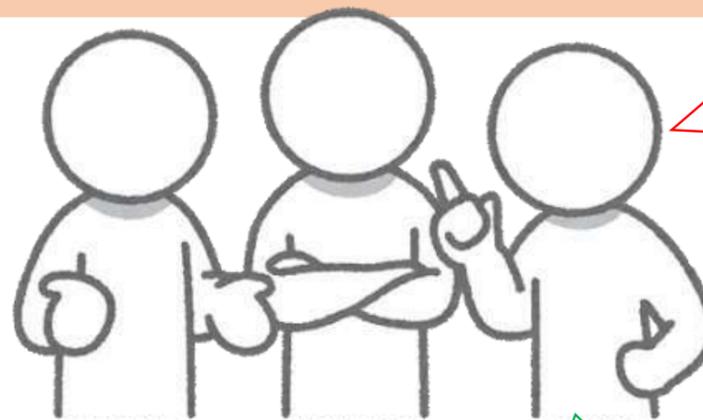
- ・熱いもの（機械、材料）
- ・充電部
- ・電気工具のコード
- ・有害光線（アーク）
- ・粉じん等

設備の
RA

作業
手順書

これら危険源は、
具体的にどこに
ある？

以前、こんな
ことがあった。



② 過去に発生した情報

過去
災害
情報

ヒヤリ
ハット

社内外における災害
情報や、ヒヤリハット
情報

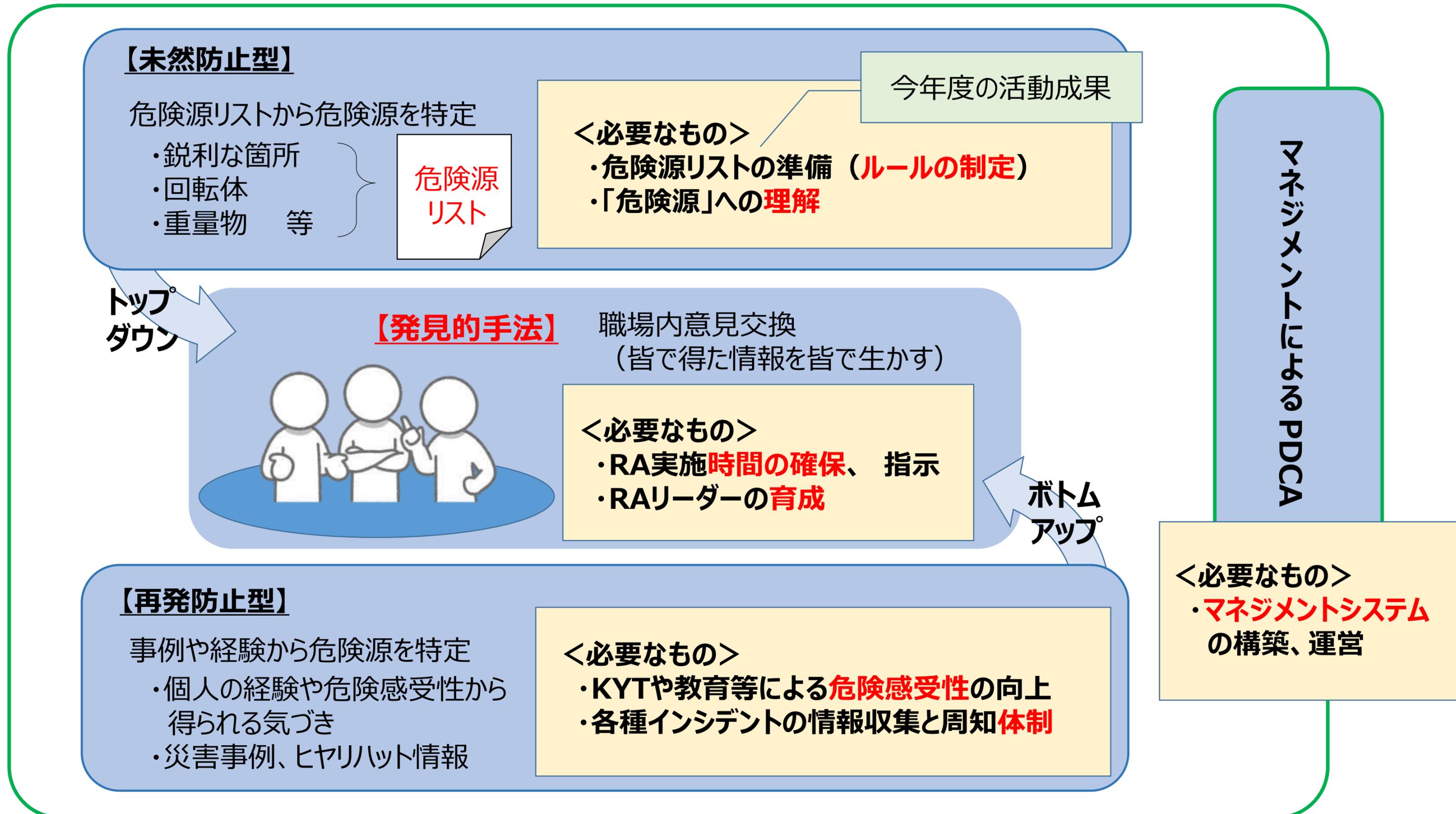
こんなとき、
危ないと思う。

③ 個人の気づき



個人の経験や
危険感受性
から得られる
気づき

7. 総括：真にリスクアセスメントを災害未然防止に生かすためには



8. 総括：向殿サブWGからの提言

【これまでの活動から見えてきたこと】

- ・各種ツールを用意しても、実際に職場で**発見的手法**を進めるにあたり、**コミュニケーションの時間や場の提供**、**リーダー**による円滑な進行等、多くの事が必要になる。
- ・事業場によって、安全衛生に対する**知識や人員の差**は大きい。

以上より、向殿サブWGは以下を提言する。

提 言

経営層の強いリーダーシップのもと安全衛生への投資促進を加速することが、災害未然防止への入口であり、経営層にしかできないことである。改めて神戸宣言の原点に立ち返り、経営層が安全衛生に対し強いリーダーシップを発揮することを期待する。

神戸宣言 四つの経営理念

- ① **経営層がリーダーシップを発揮**し、常に現場の声を反映できる体制の強化
- ② 設備の老朽化等の厳しい現状、技術革新を生かした新たな取組を踏まえた、**安全への投資**の促進
- ③ 階層別、協力会社を含めた**安全人材の育成**や**安全教育の拡充**
- ④ 重点的に取り組むべき課題を抽出し、その原因・対策などを検討し、検討結果を**業界内外に共有**